



Title	所感
Author(s)	釜洞, 醇太郎
Citation	癌と人. 1974, 2, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/24243">https://hdl.handle.net/11094/24243</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 所 感

理事長 釜 洞 醇 太 郎\*

癌の征圧という問題は、今日では単に一人の患者と一人の医師との問題ではなく、大きな社会問題として私たちの前に立ち塞っていることはいまさら多言を要しないのであります。

この癌との闘いに勝つためには、治療の側に立つ医師ならびにその基礎的研究者が今日の、また明日の癌の治療法に通じる研究に精進、努力せねばならないことは当然のことではあります。同時に、一般の方々にも癌という病気に深い関心をお寄せいただくことが必要であります。

言い換えますと、癌の征圧は一般の方々と癌研究者の共同作業によってのみ、はじめて成し遂げ得るものであると言えましょう。

このような意味で、当大阪癌研究会では、当初からその事業として、癌の研究推進と一般の方々の啓蒙による癌の早期発見を2本の柱として、本会設立の目的遂行のために努力して参りました。

具体的に申しますと、一つは大阪癌セミナーの開催であり、いま一つは癌の講演と映画の会による一般の方々の啓蒙運動や、吹田、箕面両市を中心とした乳癌の集団検診であります。

大阪癌セミナーは最初は隔月に行っておりましたが、種々の関係で、最近では春秋の2回に行い、春は基礎的研究を、秋は臨床面の研究を中心に、その時々に重要な主題を定め、全国的な規模で演者を選び、真剣な討議を重ねて参りました。お蔭様で、参加者も漸次増加し、いまや、この方面的討議会としては重要なものとして、その地歩を固めつつあります。

乳癌の集団検診は約5年間、箕面と吹田の両市に限って行って参りましたが、これは私たちの本意ではありませんでした。

わが国の乳癌集団検診は胃のそれに較べて非常におくれ、本年2月東京で行われた乳癌の集団検診研究会でも、系統的に行われているのは

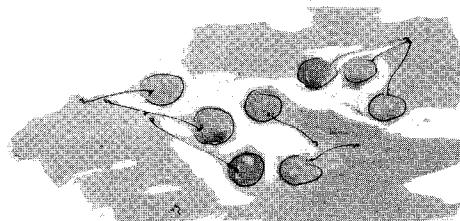
私たちの検診のほか1, 2を数えるのみで、いまだ定められた検診方法もありません。

私どもは、私どもが微研方式と呼んでいる方法で行った訳ですが、それはもちろん、早期乳癌の摘発を第1の目的としたものであったのであります。一部にはこの私どもの方式でどれ位摘発し得るかということも知りたかったのであります。このときには比較的せまい地域で細かい検診が必要だったのであります。これが吹田、箕面両市に限局して行った理由であります。

幸い昨年8月で満5年を経過しましたので、その成績を整理しましたが、今後考えねばならない点が皆無とはいえませんが、この微研方式による検診が早期乳癌の摘発に有用であることを知りました。今後、この方法を改善し、検診範囲を拡大して行く積りであります。

この大阪癌研究会はその設立の主旨にご賛同下さった賛助会員各位のご厚志により成り立っていますが、私はこの賛助会員と癌研究者の間に、みえない強いきずなの輪をさらに一般の方々にまで拡げていって、それをさきに述べましたような共同作業のきずなとして出来得る限り癌の撲滅に努力いたしたいと思っております。

今後とも、従来通りご後援、ご援助賜りますようお願ひいたします。



\* 大阪大学総長